

答辞

寒さが和らぎ、穏やかな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。

私たち 56 期生は、本日静岡東高校を卒業します。

ご臨席頂いている校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆様、そして今この場にはいない在校生の皆さん、新型コロナウイルスによる影響で大変な状況でありながら私たちのためにこのような式を挙げてくださり、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

突然ですが、みなさんは新井紀子さんのキャリア講演会でのお話を覚えているでしょうか。ロボットが東大受験をするというものです。残念ながら東大には合格しませんでした。その知能は **GMARCH** クラスの大学に合格するほどです。これから **AI** は、更なる発展を遂げ、より一層私たちの生活へと入り込んでくるでしょう。私たち東高生は学校生活を通して様々な人に出会い、貴重な体験をしながら、課題をクリアすることで批判的かつ総合的な思考力を身につけてきました。これから私たちは、この能力に磨きをかけ、感情ある人間だからこそ出来る働きを目指していきます。

振り返ってみると、私たち 56 期生は入学してからの 2 年間、先輩方の大きな背中に憧れを抱きながら勉学に励み、部活に打ち込み、休む暇もなく、忙しい毎日を送りました。そんな中昨年度の終わりから新型コロナウイルスの猛威に晒されました。例年通りであれば、5 月にはクラス内の交流を深めるため遠足に出かけ、6 月には東陵祭を開催し、HRP では大いに盛り上がったことでしょう。しかし、実際のところは、3 月から 5 月まで実質 2 ヶ月半の休校、8 月までの学校行事中止、一発勝負となった期末テスト。最後の 1 年間は、あまりに過酷な一年間だったと思います。100 年に 1 度のパンデミックで失ったものは、数知れません。しかし、これほどまで自身の将来について真剣に考えた一年は今までにあったでしょうか。友人と共に教室で学ぶこと、会話をすること、休日を楽しむこと。これほどまで今までの当たり前を望み、愛しんだことはあったでしょうか。予測不可能な事態だったからこそ、身近にある大切なものに気付かされたのではないのでしょうか。これから私たちが長い人生を歩む上で、様々な場面でこれまで経験した以上の困難が訪れるかもしれません。今の経済状況を考えれば、私たちの代の就職は今年乗り越えた受験よりも過酷なものかもしれません。その時、東高での生活で培った忍耐強さを発揮し、激動する社会にのまれないよう確かな自分を持ち続けて欲しいと思います。

楽という漢字の本来の意味は、苦しみがなく身も心も安らかであることだそうです。しかし、楽をして楽しい時間が訪れるほどこの人生は容易いものではありません。そんな人生を歩むために東高は、楽をするのではなく、苦しい時間の中で「楽しい」を考えることの重要性を教えてくださいました。日々邁進し努力し続けることの楽しさを知りました。「楽しいはひとつじゃない」と教わりました。多くのことを学ばせてくれた東高に深い感謝を持つと共に、長い人生における高校 3 年間という貴重な時間をこの静岡東高校で過ごせたことを嬉しく思います。

過去の思い出よりも、頼りない記憶よりも確かに、この体に心に今まで経験してきたことが全て詰まっています。それらを力に変えて、不透明な明日に私たち 56 期生は挑戦していきます。その姿をこれからも見守り続けて下さい。

そして、この答辞が私の生徒会長としての最初で最後の大仕事です。生徒会長として成し遂げたかったことは多くあります。しかし、悔恨を挟む間も無く時間は過ぎていきます。この思いを後輩に引き継ぎ私は私の新たな道を歩き始めます。

近年、合併を強いられる高校も多い中で後輩の皆さんには、この静岡東高校を守るための努力を、絶えず続けて欲しいです。そのために、新しい事に取り組む勇気と未来を形作る目標を持って下さい。そして、この春東高生となる後輩の皆さんは、私たちと同様にこの状況での受験を乗り越えてきた生徒たちであり、母校の力となる新たな光です。どうか温かな歓迎とより一層のサポートをよろしくお願いします。また、先生方には今後とも東高にしかないサポート力を遺憾なく発揮して頂き、在校生と新入生と共に新たなことに挑戦する勇気を持って頂けたら嬉しいです。OB、OGとしてこれからも東高が存続し、発展し続けるよう、私たちも母校を思い、努力し続けます。

18年間お世話になった保護者の皆様。この不安定で見通しがつかない状況の中私たち56期生を絶えずサポートして下さったこと。本当に感謝しています。皆様の支え無しに、今日の卒業の日を迎えることはできませんでした。本当にありがとうございました。

最後に。私は学校に行かなければならない毎日が苦痛でした。あの時なぜ東高を選んだのか。何度も自問自答を繰り返しました。それでも今日こうして東高生として卒業の日を迎えられるのは、他でもない56期生の皆さんのお陰です。苦手な教科があっても、週テストがあっても、クラスメイトに会いたくて、みなさんと話がしたくて、休み時間が楽しみで学校に通っていました。生徒代表として話した新入生説明会では、私自身が東高を選んで良かったと胸を張って言えないと伝えました。しかし、今この壇上に立って東高での生活を回想すると、本当にこの学校を選んで良かった、56期生のみなさんに出会えて良かったと本気で思います。楽しかった時間はもちろん、苦しかった経験も全て今日からはかけがえのない宝物です。本当にありがとうございました。

名残りはつきませんが、今まで支えて下さった全ての方々への深い感謝と静岡東高校の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。3年間ありがとうございました。

令和3年3月16日 卒業生代表 34HR 和波 志栞